



『5つの提言』を受けて、 今やるべきこと(1)

—初見の文章による 内容理解の評価(Reading)

大岩 樹生 Ohiwa Tateo (新潟県新潟市立白新中学校)

①. はじめに

「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」が2011年7月に示された(文部科学省ホームページ参照 <http://www.mext.go.jp/>)。このうち、特に英語の授業に直接関わる提言1「生徒に求められる英語力について、その達成状況を把握・検証する」と提言3「ALT、ICT等の効果的な活用を通じて生徒が英語を使う機会を増やす」に焦点を当て、3回の連載において、以下の計画で、実践を紹介していく。

第1回…初見の文章による内容理解の評価
(Reading)

第2回…英作文に求められる英語力の達成状況の把握—実践(Writing)

第3回…ボイスレコーダーの効果的な活用
(Listening, Speaking)

②. 実践のきっかけ

教科書本文と同じ内容を、定期テストで再度問うことでどのような力を評価しようとしているのだろうか。それはただの暗記ではないのか—これは私が初任者のときにもった疑問である。

定期テストにおいて、教科書本文の一部を抜粋し、その中身を問う問題を課したのに、生徒が抜粋されていない本文の別の部分に根拠を求めて解答する。完璧に間違っているわけではないので、おまけしてしまう—誰もこのような経験があるはずである。

このようなことがあるたびに、初任者のときの疑問を思い出すが、15年以上、この疑問を解決せずに、「教科書を教えるのではなく、教科書で教える」ことの重要性をまことしやかに後輩に指導してきた。

これではいけないと思い、自分なりに「読み」の評価について真剣に考え、本実践を行った。

③. リーディングのスキルの評価

中学校学習指導要領[外国語]には、言語活動「ウ」読むこと(ウ)に、「物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること」と書かれている。書き手の伝えようとするを正確に読み取る力を生徒に身に付けさせなければならない。そして、平成28年までに各校でCAN-DOリストを作成しなければならない。このことから、上記のリーディングのスキルをいかに身に付けさせるかとともに、この力が身に付いたかどうかをどのように評価すればよいかについて大いに悩んでいる。

「説明文の大切な部分を読み取ることができる」についての達成度を評価する際、教科書本文で読み取った内容について、定期テストで再度問うのは、いささか乱暴な気がする。冒頭にも記したとおり、解答においては、既習事項の暗記に頼る部分が大きく、評価の妥当性は低いと言わざるを得ない。妥当性を高めるためには、どうしても別の文章を用意する必要がある。

そこで、教科書本文とパラレルな文章の提示により、上記の力が身に付いたかを評価しようと試みた。

これまで、落語と小唄を扱った単元では、別の小唄を提示したことがあったが、今回は、説明文でのパラレルな文章の作成にチャレンジした。

④. パラレルな文章による評価の実践例

NEW CROWN Book 3 LET'S READ 1 "Learning from Nature"では、自然の叡智を生かして、人間の生活の改善を図った例を紹介している。Read and Thinkとして、次のような表に「(注目した)動植物」「(その動植物を参考にして)開発したもの」「(動植物と開発したものとの)類似点」などの必要な情報を埋めるタスクを課している。

動植物	作ったもの	類似点
fish		
lotus leaves		
beetles' soft wings		

5. 実践の成果と課題

表の中の情報をほぼ正しく埋められた生徒は7割である。当校の生徒の実態から考えれば、難易度としては、適切な課題であったと判断している。

また、初見の文章を提示することで、暗記に頼らない、純粋なスキルを評価することができた。つまり、妥当性の高い評価ができた。また、大きな成果として次の点が挙げられる。

指導と評価の一体化が図られた。

未習語の導入後、自力読みで表に必要な情報を埋めさせ、その後構造と内容について丁寧に説明した。

定期テストにおいては、別の生物（フクロウ）の例についてパラレルな文章を提示するとともに、授業と同様のタスクを課した。

大切なのは、何をもって、“パラレル”と言うかである。単に、「自然の叡智を人間の生活に生かした例」を紹介した内容の文章を示すだけでは不十分であると考ええる。

“パラレル”であるための要件は、

内容面と形式面の両方が類似していること

であると考ええる。

そこで、形式面でも類似した文章にするために、この類の説明文として特徴的な、以下の語、語句を教科書本文よりピックアップした。

living things / copy / scientists / research and develop / getting ideas from nature and using them / ~ can teach us a lot, especially about ~ing / ~ have a special way to ~ / similar method / with ~ design / the wisdom of nature

これらの表現を意図的に用いて、未習語については、注釈で示した上で、パラレルな文章を作成し（次頁資料参照）、授業と同様のタスクを課した。

この文章を作成するにあたって、指導書等を参考にした。246語の長文であるが、その内の209語は、教科書本文でも用いられている。実に85%の単語が同じであり、使用語彙の点においても、教科書本文と類似している。さらに、段落内の構成についても類似させた（次項参照）ことにより、多くの生徒にとっては、全く初見の文章であるとは感じられなかっただろう。

指導においては、基本的に生徒の自力読みを促しながらも、特に「習得された読みのスキルが、他の類似した場面に活用されるように指導すること」に留意した。

教科書本文では、第2段落で魚を、第3段落で植物（ハス）を参考にして、人間の生活を改善した例が述べられており、それぞれ次のように始まる。

《第2段落》

Fish can teach us a lot, especially about moving smoothly. For example,...

《第3段落》

We can also learn a lot from plants about taking care of ourselves. For example,...

この後は、動植物のどのような特徴を生かし、どのような発明品を作り出したのか等、その具体が記述されている。

両段落とも、トピックセンテンス（下線部：その段落の内容を端的に説明した文）→サポートセンテンス（波下線部：トピックセンテンスを支える具体例）という構成になっている。教科書本文第2段落において、この構成について丁寧に説明し、ここで習得された読み方が、形式的に類似している第3段落において、活用されることをねらった。

さらに、習得した読みのスキルが、定期テストでの類似の文章を読み解く際にも、活用されることをねらったことで、指導と評価の一体化が図られた。

しかしながら、課題も明らかになった。それは、「パラレルな文章を課す際の、設定時間の難しさ」である。本テストを行う前、別の生物（ハチ）の例で、同様の実践を試みたが、時間が足りず、十分に解答

できた生徒が少なかった。

いくら類似しているからといっても、やはり生徒にとっては初見の文章であることには変わらないことから、適切な時間設定に配慮しなければならない。

6. おわりに

本実践を通して、「教科書を教えるのではなく、教科書で教える」ことの一端を具現化できた。

しかしながら、このような作業を3年間すべての

リーディング教材において一人で行うのは難しい。

CAN-DO リスト作成においては、学校の英語科教員や同じ教科書を使用する同一地域で、協力することが必要不可欠である。当校の英語科の先生方にも、別單元において同様の実践を促し、各自実践している最中である。平成28年まで、計画的に進めていきたい。

【参考文献】

米山朝二(1989).『英語教育 実践から理論へ』松柏社.
松沢伸二(2002).『英語教師のための新しい評価法』大修館書店.

資料

① Have you ever thought of flying like a bird? Many people have. In fact, one of the first designs of flying machines copied the actions of bird wings.

② Getting ideas from nature and using them is now common. We call this biomimicry. “Bio” means “living things” and “mimicry” means “to copy.” It means that we copy the wisdom of nature to solve¹ many problems. Scientists often do it when they research and develop new products and technologies.

③ Birds can teach us a lot, especially about moving silently². For example, the owl³ is the bird that can fly silently. Owl wings have a special way to fly silently. A part of their wings looks like a saw⁴. This design cuts off⁵ the sound. So they can get close to⁶ small animals before they notice⁷ them.

④ The *Shinkansen* is one of the fastest trains in the world and it is sometimes very noisy⁸. So a man who worked at JR⁹ copied the design of owl wings. Now, the *Shinkansen's* pantograph¹⁰ uses a similar method to cut off the sound. With this design, the *Shinkansen* can move silently.

⑤ All living things have developed special ways of living. Humans have studied many of them. Some are too difficult to copy. Some are so small that we cannot easily discover them. Sometimes humans come up with a method and then find a similar method in nature. The wisdom of nature is great. What will we learn from it in the future?

[246 words]

1 solve 解決する 2 silently 静かに 3 owl フクロウ 4 saw のこぎり 5 cut off 削減する
6 get close to ～～に近づく 7 notice 気付く 8 noisy やかましい
9 JR Japan Railways の略で、国鉄が分割・民営化して新設した旅客鉄道会社6社と貨物 鉄道社の統一的略称 10 pantograph パンタグラフ (右写真参照)

※下線部は、形式的に教科書本文と類似させるために意図的に用いた語句、文。
※第1段落と第5段落は本文と全く同じ。



500系新幹線のパンタグラフ